

“こどものミカタ”に ご支援をお願いいたします

「指示が入らない」「字がきたない」「暴言が直らない」
— そんなことを私たちは何十年、嘆き続けてきたで
しょうか。

特別支援教育が始まり、学校に特別支援教育支援員が配
置されて11年。放課後等デイサービスが法に位置づけられ
て7年。「時代は変わり、子どものいる現場も良くなって
いる」という印象を、多くの人が持っているでしょう。

でも、本当に現場がどんどん良くなっているのなら、な
ぜ、10年前、20年前の教師や支援者や保護者が悩んでいたの
と同じことで、いまの人たちも悩んでいるのでしょうか。

この10年あまり、学齢期の”障害”支援のニーズは増え
続け、専門家の供給が追いつかないからか、子どものいる現
場に経験不問で続々と人が採用され、多くが研修の機会もな
いまま現場に出ています。そして、自信のないまま働く不
安や、肝心の現場で職種として認識・尊重されていると言
えない状況も生じています。

人と予算を投入すれば課題は解決する、と思われてきた
ことが、開けてみれば別の課題を生んでいて、結局、本来の
課題はなんら解決されていない。

いまの状況は、そんな風に見えます。

もう、やり方を変える時ではないでしょうか。

現場で子どもにじかに接する人には、その立場にしかで
きない役割があります。実は、最近よく言われる「チーム支
援」において、要になれる存在です。

そのことに気づき、いまあるヒューマンリソースを活か
してチームで取り組んでいけば、これからの現場はきっと、
これまでとは違っていくはずなんです。

このことを伝えるために、“こどものミカタ”養成講座の
オブザベーションへお誘いいたします。

“こどものミカタ”養成講座実行委員会は、今後も、プログ
ラム開発を続け、「質が高く」「身近で」「参加しやすい」ことを旨
として、幅広い方々へ私たちの講座を提供していきたいと考えて
います。この活動を継続し、また、継承する次の世代を育成
していくために、みなさまのご支援をお願いいたします。

●活動資金のご支援

一口3,000円からの単回のご寄付と、一口100円から毎月定
額をご支援いただく継続のご寄付、2つのプランをご用意して
います。 ※継続のご寄付はSquare決済によるクレジットカード支払いの
みのお取り扱いとなります。

Squareクレジットカード決済(Visa/Master/Amex/JCB)

- ・お申込み後、Square 発行のメールにてオンライン決済用の
請求書をお送りします。メール内に記載された手順に従って
決済をお願いいたします。
- ・携帯メールアドレスご利用の方は、お申込みの前に必ず、
kodomo-no-mikata.org および squareup.com をドメイン指
定で受信許可設定してください。

ゆうちょ銀行(振替/振込)

<郵便振替> 振替口座 00210-7-141720

<他行振込> 店番029 当座預金 0141720

名義：“こどものミカタ”養成講座実行委員会
(読み：コドモノミカタヨウセイコウザジッコウイインカイ)

●協働・連携でのご支援

行政、支援機関、市民団体などの団体、および個人で、私た
ちと課題を共有してくださるみなさまと協働・連携していきたい
と考えています。まずは、お気軽にお声がけください。ど
んな連携が実現可能か、ご一緒に考えていきましょう。

“こどものミカタ”養成講座実行委員会

<http://kodomo-no-mikata.org/>

〒305-0047 茨城県つくば市千現 1-13-3

パルスグランレジオつくば千現 502

Email: kodomo-no-mikata@kodomo-no-mikata.org

電話：070-4165-0941 (事務局 平日 10~19時)

Facebook: <https://www.facebook.com/kodomo.mikata/>



体験型オブザベーションのご案内
2019年版

“こどものミカタ”養成講座実行委員会



「見立て」「手立て」を「役立て」る “こどものミカタ”養成講座

“こどものミカタ”養成講座は、1回3時間×3回完結の連続講座です。各回に「見立て」「手立て」「役立て(る)」というテーマを設定し、グループワークで学びます。

講師はそれぞれ専門分野で活躍している方ですが、「偉い先生の話」を3回、聞きに行くのではなく、似た立場同士、お互いの経験や意見を共有し、そこにヒントを見つけ、ひきだしを増やす—受講者には、そんな気持ちで来てほしいと思っています。

講座の受講者の大半は“障害”を前提に子どもと接している人であり、講師も長年“障害”を扱ってきた専門家ですが、この講座では“障害”それ自体はあえて扱いません。また、3回のうち1回は、一見“障害”や“支援”とは関係なく見える「話し合い」が題材。おそらく、従来の「研修」のイメージとはだいぶ違うと思います。

さらに、3回の受講日だけでなく、学びを現場へ持ち帰り実践してみること、次回まで自分や担当の子どもを見つめることを促す工夫をし、講座での学びが確実に定着するようなプログラム構成を心がけています。

なぜなら、講座の受講それ自体が目的なのではなく、受講後の日々の実践が本番だからです。この講座は、「答え」を提供する場ではなく、「答えを見つける力」をつける、そのためのヒントときっかけを提案する場、なのです。

“障害”を手放すと見えてくる 本当に必要な資質

この講座は当初、「特別支援教育支援員」つまり“障害”を前提とした子ども支援職をロールモデルに開発を始めました。しかし、「では、その人に何を伝えるのか」「結局、大事なことは何か」を突き詰めていくうち、プログラムはどんどん“障害”を離れて行きました。

それは、“障害”を前提にしなくても言えることばかりだったからです。よく「発達障害は一人ひとり異なる」と言われますが、そもそも、人はみな異なるのです。この大前提に立てば、“障害”の知識の有無はそれほど重要ではなくなります。

というより、知識がない時は「その子(人)」を見ていた人が、“障害”の知識を得た途端、人を、でなく、“障害”を見ようとしてしまう—その弊害のほうが深刻です。近年は「中途半端な知識は、むしろ邪魔になる」と指摘する専門家も出てきています。従来の「専門性」や「資質」や「研修」の考え方を見直す時期にきています。

この講座では、“障害”にとらわれずに、一人ひとりの子どもをとことん「見る」こと、そこから、自分とその子の一对一の信頼関係を築くこと、それなしに“支援”は始まらないことを伝えます。

別の角度から言えば、“障害”を手放すことで、この講座のコンセプトはどんな子どもに対しても共通する、もはや「子ども」さえ超えて、広く「人と人」の関係性に共通する「見かた」であることに気づいていただけるでしょう。

オブザーバー参加にあたって

“こどものミカタ”養成講座の理念や具体的な内容を十分ご理解いただけるよう、オブザーバー自身も講座を体験する形でオブゼーションをお受けしています。※オブザーバー同士のワークグループとなります。

- 3回すべての参加を前提にご検討ください。また、最終日終了後のスタッフミーティングにご同席のうえ、ご意見をいただけると、たいへん助かります。

- 遅刻、中座、早退、欠席等のないようスケジュール調整をお願いいたします。

- 講座のフィードバック協力を必須とさせていただきます。
※各回について、記述式アンケートにてお願いする予定です。

- 資料代(3回分1,500円)のみ、ご負担をお願いします。
※初日の受付時にお支払いください。なお、欠席の場合もご返金はできません。

体験型オブゼーション参加ご希望の方は、このパンフレット裏表紙に記載の事務局までご連絡ください。